



釜石市郷土資料館 平成30年度企画展第1弾 昭和20年6月29日の釜石



米国立公文書館所蔵米軍撮影空中写真
(一財)日本地図センター

太平洋戦争末期の昭和20(1945)年7月14日、釜石は本州初の艦砲射撃を受けました。その2週間前の6月29日、米軍のF-13A写真偵察機による作戦が実行されています。企画展では、当時、高度7,500^{フィート}から撮影された釜石市街地(水海から中妻、平田まで)の写真、作戦の詳細説明の他、戦災資料を展示します。

日時 7月11日(水)～8月31日(金)
※開催期間中は、毎日開館します
9時30分～16時30分
(最終入館：16時)
場所 市郷土資料館 戦災資料展示コーナー (入館無料)
内容 昭和20年に釜石が受けた、艦砲射撃に関する戦災資料を展示します

釜石市郷土資料館は改装工事を終え、6月から展示を再開しています。7つのテーマに分け、これまで企画展でしか見ることができなかった資料も展示してありますので、ぜひお越しください。

郷土芸能

2年に一度開催される釜石市郷土芸能祭の様子を上映している他、虎舞や鹿踊りなど市内で継承される郷土芸能を紹介しています。



製鉄

古くから釜石地方で行われていた製鉄業から近代製鉄への転換は「まち」の発展に大きな影響を与えました。その遺構は橋野鉄鉱山として平成27年7月、世界遺産に登録されました。

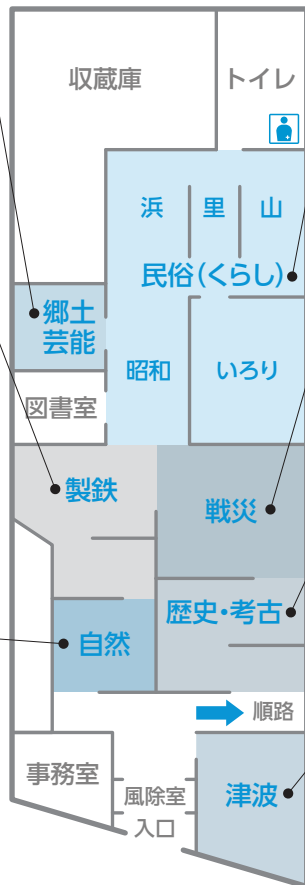


自然

釜石の地形や地質に関する資料と動植物の剥製、標本を展示し、豊かな自然を紹介しています。



館内図



民俗

先人の知恵や工夫が溢れる、海や山、里の暮らしにまつわる民俗資料と、いろいろある民家を再現した部屋では当時の暮らしぶりがうかがえます。



戦災

東北で唯一の製鉄所をもつ軍需都市だった釜石は、終戦間際の昭和20年夏、本州で初めて連合艦隊による艦砲射撃を2度にわたり受けました。戦時中の市民の暮らしを再現したコーナーもあります。



歴史・考古

釜石には、およそ320もの遺跡があり、多種多様な遺物が発見されています。大石の屋形遺跡では大規模な貝塚も見つかっています。



津波

三陸地方はこれまで幾度となく津波の被害を受けてきました。東日本大震災をはじめとするこれまでの津波の歴史を後世に伝えます。



問い合わせ 釜石市郷土資料館 ☎22-2046